
IRのポイント解説

有限責任 あずさ監査法人

平成30年2月

本日の説明内容

1. IRとは何か

- (1) IRとは何か
- (2) 日本型IRは何を目指しているのか

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

- (1) 海外におけるIRの事例
- (2) IRに対する規制
- (3) IR開業までのプロセス

3. インバウンド促進に向けた課題とIR

- (1) 現状と課題
- (2) 北海道にIRが設置された場合に期待される効果

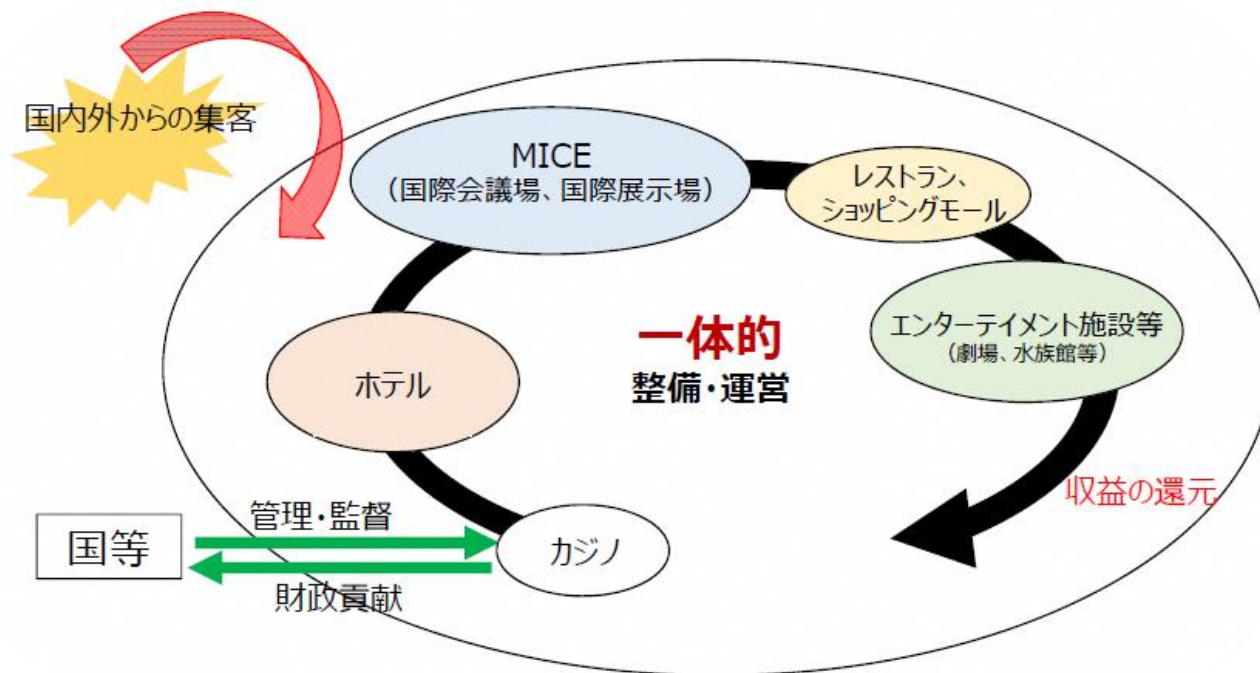
1. IRとは何か

(1) IRとは何か

1. IRとは何か

(1) IRとは何か – IRの定義

- IR (Integrated Resort) とは、カジノ施設とノンゲーミング施設（ホテル、MICE、レストラン・ショッピングモール、エンターテインメント施設等）が一体となっている施設群であり、「統合型リゾート」と訳される
- カジノの収益により、大規模な投資を伴う施設全体の採算性を確保することができる
- 民間事業者の投資により、国内外からの集客及び収益を通じた観光地域振興、新たな財政への貢献が期待される



(出典) 特定複合観光施設区域整備推進本部事務局 「IR推進会議取りまとめ(概要)～「観光先進国」の実現に向けて～」平成29年8月

1. IRとは何か

(1) IRとは何か – ノンゲーミング施設とは

想定される カジノ以外の中核施設	概要
MICE 誘致に当たり、日本の国際競争力の向上が図られる機能を有する施設	国際会議場・展示場等 ※MICEとは、Meeting（会議）、Incentive（報奨・研修旅行）、Convention（学会会議等）、Exhibition（展示会）の頭文字を取った言葉
我が国の伝統・文化・芸術・先端技術等の魅力を ショーケースとして強力に発信 する機能を有する施設	劇場、博物館、美術館その他のレクリエーション施設、レストラン、ショッピングモール等
ショーケースで触れた日本の魅力を実際に現地で体験するため、 全国各地へ観光客を送り出す 機能を有する施設	日本国内の旅行を提案・アレンジする施設等
国際競争力のある 滞在型観光拠点 として、宿泊需要に対応し、かつ、宿泊需要を生み出す機能を有する施設	ホテル等

（出典）特定複合観光施設区域整備推進会議

「特定複合観光施設区域整備推進会議取りまとめ～「観光先進国」の実現に向けて～」（平成29年7月31日）

1. IRとは何か

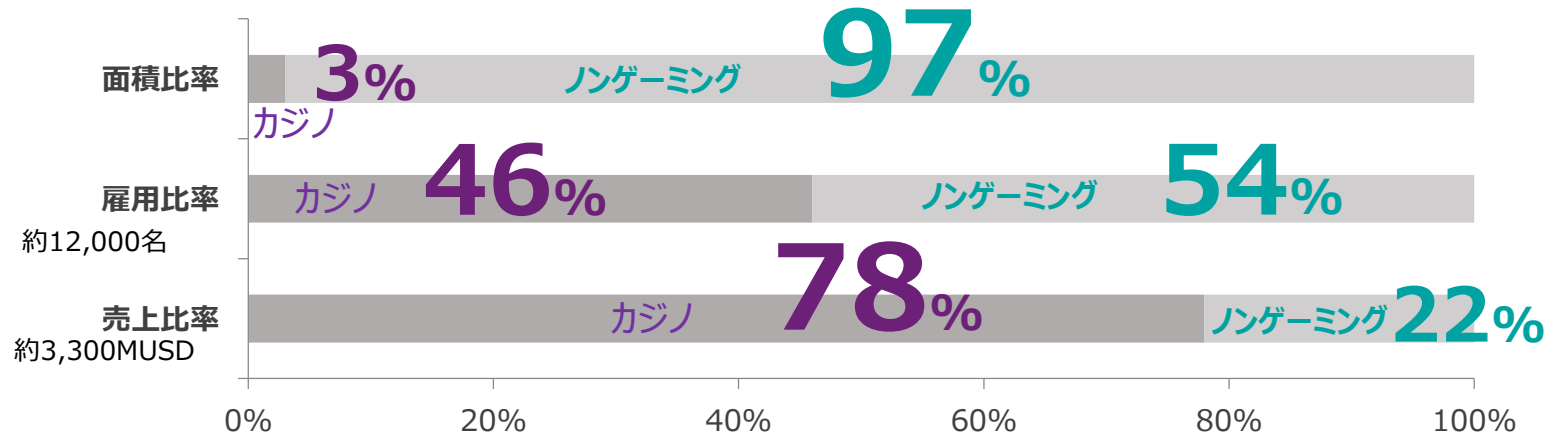
(1) IRとは何か – カジノとノンゲーミング施設の割合

- ☑ カジノの面積がIR全体の面積に占める割合は、数%程度
- ☑ 一方、IR施設全体の売上及び利益の大半は、カジノからもたらされる



カジノの高い収益力を活用することにより、魅力的なノンゲーミング施設への投資・維持運営が可能となる

カジノとノンゲーミング施設の比率（シンガポールのマリーナ・ベイ・サンズの例）

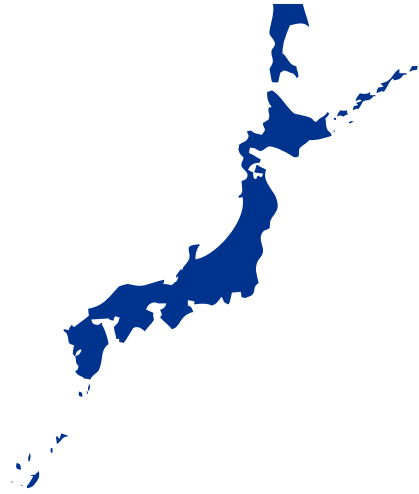


(2) 日本型IRは何を目指しているのか

1. IRとは何か

(2) 日本型IRは何を目指しているのか – IR導入を目指す理由

■ そもそもなぜ日本にIRが必要なのか…



日本は、人口減少や少子高齢化に伴う**労働力の減少**、地方の**過疎化**等様々な問題を抱えており、**経済成長率の低迷**や**国民一人当たりGDP順位の低下**が続いている



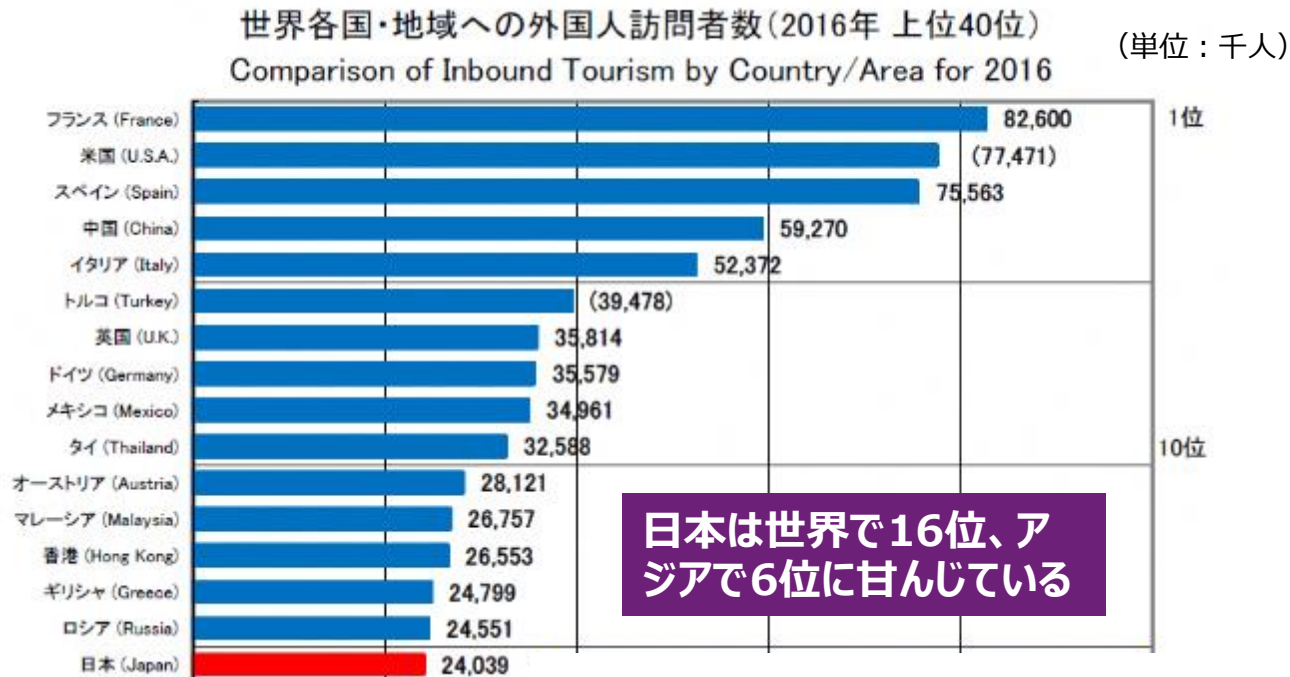
政府は、「**観光**」を**成長戦略の柱**、**地方創生の切り札**として位置づけており、日本の観光の**国際競争力を高めるための施策**の一つとして、**IRの導入を目指している**

1. IRとは何か

(2) 日本型IRは何を目指しているのか – 日本の観光産業のポテンシャル



日本は、**治安の良さ**、**豊かな自然**や**温泉**、**歴史的な建造物**や**街並み**、**独自の食文化**、最先端の**テクノロジー**や**ポップカルチャー**等、外国人観光客をさらに呼び寄せる**大きなポテンシャルを有している**が、これらを**十分に活用できていない**



(出典) 日本政府観光局 (JNTO) ウェブサイト「世界各国、地域への外国人訪問者数ランキング」より抜粋 (https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_statistics.html)

1. IRとは何か

(2) 日本型IRは何を目指しているのか – IR導入の効果

- ✓ IRは**国際観光競争力向上のエンジン**として位置づけられている
- ✓ IRの投資・運営に伴い、**地域・産業振興に対する高い効果**が期待される



IRが**国際観光競争力向上のエンジン**となる

- カジノ収益による魅力的なエンタメ施設、国際競争力ある会議場・展示場を整備
- 日本観光のショーケース機能
- 日本観光の弱点強化
 - ✓ 富裕層向け宿泊施設
 - ✓ 長期滞在型リゾート
 - ✓ ナイトエンターテインメント



IRによる**地域・産業振興効果**

- IR施設の建設・運営に伴う地域産業の経済効果、地元雇用創出
- IRを起点に周遊観光の需要創出
- IRに関連する周辺地域の開発、活性化
- カジノ納付金の観光振興活用、税収等も含めた財政改善

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント



2017年10月に北海道全6会場において実施した「IRに関する道民セミナー」のアンケートの中で、道民の皆様から「より詳しく話を聞きたい」と多くのご回答があった項目は以下のとおり



道民の声①

海外のIRの事例をもっと知りたい！



道民の声②

IRに対する規制の内容を教えてください！



道民の声③

IRが日本にできるまでのプロセスが知りたい！

(1) 海外におけるIRの事例

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例



道民の声①

海外のIRの事例をもっと知りたい！

事例	施設例	ポイント
① 日本型IRが参考にするIRモデル	<ul style="list-style-type: none">● マリーナ・ベイ・サンズ (シンガポール)● リゾート・ワールド・セントーサ (シンガポール)	<ul style="list-style-type: none">➢ シンガポールのIRは、観光振興やMICE誘致目的で設置された点及び厳格な規制が適用されている点等から、日本型IRが参考にするモデルの一つとされる➢ 2010年に開業した2つのIRの集客効果により、シンガポールを訪れる外国人観光客数が約20%増加
② IRを利用した地域の再開発	<ul style="list-style-type: none">● クラウン・メルボルン (オーストラリア)● カンウォンランド (韓国)	<ul style="list-style-type: none">➢ 大規模な投資を伴い高い集客力が期待されるIRは、地域の再開発及び活性化の有効な手段➢ IRの開発及び運営により、地域産業への貢献、雇用の増加、観光客の増加等が期待
③ 周囲の自然や街と調和したIR	<ul style="list-style-type: none">● フォックスウッズリゾートカジノ (米国)● バーデンバーデン (ドイツ)	<ul style="list-style-type: none">➢ IR施設単独ではなく周辺の自然や街も含め都市全体でリゾートエリアを形成
④ 世界一のエンターテインメント・シティ	<ul style="list-style-type: none">● ラスベガス (米国)	<ul style="list-style-type: none">➢ カジノやショー等の多彩なエンターテインメント、MICEの開催等により多くの観光客を誘客し、国際的競争力の高い滞在型観光を実現➢ 魅力的なエンターテインメントのコンテンツを提供することにより、ノンゲーミング売上高がカジノ売上高を上回る

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例① 日本型IRが参考にするIRモデル (1/2)

マリーナ・ベイ・サンズ (シンガポール)

■ 特徴

- 3棟の高層ビルを屋上で連結した特徴的な構造の建物が、シンガポールのシンボルの一つとなっている
- 地上57階屋上にあるプール、「インフィニティプール」が有名であり、多くの観光客が訪れる

■ 主な施設構成及びその規模

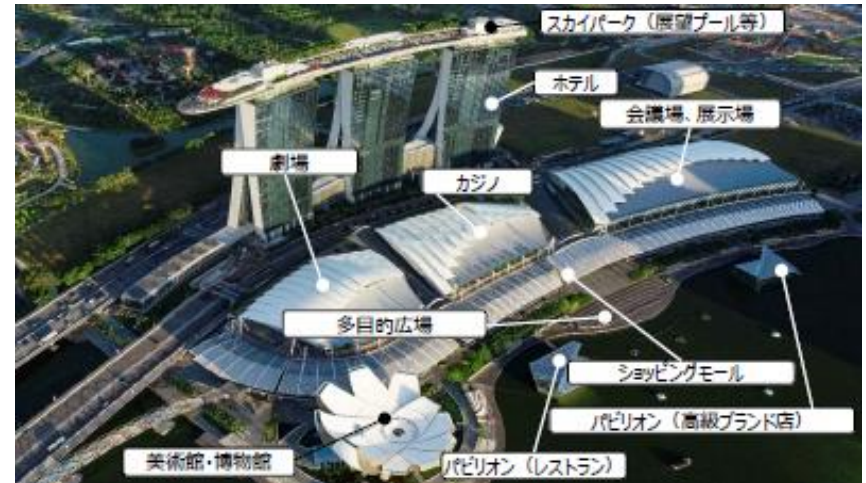
- 売上：約3,000億円 (2016年12月期)
- ホテル：2,561室
- MICE：会議場12万㎡、展示場 3 万㎡
- ショッピングモール：8万㎡、約260店舗
- カジノ：1.5万㎡

■ その他施設

- 美術館・博物館、劇場
- スカイパーク (プール、展望台、レストラン等)

■ 事業者

Las Vegas Sands 社 (米国)



(出典) 第4回 特定複合観光施設区域整備推進会議 配布資料



(出典) マリーナ・ベイ・サンズ ウェブサイト (<https://jp.marinabaysands.com/>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例① 日本型IRが参考にするIRモデル (2/2)

リゾート・ワールド・セントーサ (シンガポール)

■ 特徴

- ビジネス層・大人向けのマリーナ・ベイ・サンズとは対照的に、ファミリー層向けの施設が充実
- シンガポールのセントーサ島にあるIRで、東京ドーム約10個分の広大な敷地を有する
- 世界的なテーマパークである「ユニバーサル・スタジオ・シンガポール」や世界最大級の水族館「シー・アクアリウム」が併設されている

■ 主な施設構成及びその規模

- 売上：約1,800億円 (2016年12月期)
- ホテル：合計1,800室
- MICE：会議場6万㎡
- ショッピングモール：3万㎡、約100店舗
- カジノ：1.5万㎡

■ 主な施設

- ユニバーサル・スタジオ
- 水族館

■ 事業者

Genting社 (マレーシア)



(出典) リゾート・ワールド・セントーサ ウェブサイト
(<http://www.rwsentosablog.com/>)



(出典) 第4回 特定複合観光施設区域整備推進会議 配布資料

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例② IRを利用した地域の再開発 (1/2)

クラウン・メルボルン (オーストラリア)

■ 特徴

- かつては廃れた倉庫街だったヤラ川南岸地区の再開発の一環として建設された
- IRを中心とした再開発により、同地区は文化やエンターテインメントを包含する一大商業地区へ変貌し、近隣は高級住宅街となっている
- 南半球最大規模のIR

■ 主な施設構成及びその規模

- 売上：約1,700億円 (2017年6月期)
- ホテル：合計1,600室
- MICE：会議場0.7万㎡、宴会場1,500席
- カジノ

■ その他施設

- コンサートシアター
- ショッピングモール

■ 事業者

Crown Resorts社 (オーストラリア)



(出典) クラウン・メルボルン ウェブサイト (<https://www.crownmelbourne.com.au/>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例② IRを利用した地域の再開発 (2/2)

カンウォンランド (韓国)

■ 特徴

- エネルギー政策の転換に伴う石炭の廃鉱地域の経済の蘇生・復興を目的として、2000年にカジノが設置され、後にリゾートとして整備
- 韓国に17あるカジノ施設の中で、唯一韓国国民が入場することができるカジノである
- カンウォンランドの売上金額は、他の16の外国人専用カジノの売上の合計金額を上回る

■ 主な施設構成及びその規模

- 売上：約1,700億円 (2016年12月期)
- ホテル：1,800室
- MICE
- カジノ：1.3万㎡

■ その他施設

- スキー場
- ゴルフ場

■ 事業者

カンウォンランド社 (韓国)



(出典) カンウォンランドウェブサイト (<http://kangwonland.high1.com/eng/Khome/main.high1>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例③ 周囲の自然や街と調和したIR (1/2)

フォックスウッズリゾートカジノ (米国コネチカット州)

■ 特徴

- ニューヨークから約200kmのレッドヤード市に位置し、森林に囲まれた約75万㎡の広大な敷地を有する米国最大規模のIR
- インディアンのマシャントケット・ピクオート族が経営
- テイラー・スウィフト等の世界的アーティストがコンサートを行っている

■ 主な施設構成及びその規模

- 売上：約950億円 (2016年9月期)
- ホテル：1,950室
- MICE：会議場0.8万㎡、宴会場0.7万㎡
- カジノ：合計3.0万㎡

■ その他施設

- 劇場 (4,000席)
- 娯楽施設 (ナイトクラブ、ゲームセンター等)
- レストラン、専門店
- ゴルフ場、トレッキングコース

■ 事業者

Foxwoods社 (米国)



(出典) フォックスウッズリゾートカジノウェブサイト

(<https://www.foxwoods.com/default.aspx>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例③ 周囲の自然や街と調和したIR (2/2)

バーデンバーデン (ドイツ)

■ 特徴

- ヨーロッパ有数の高級温泉保養地であり、温泉施設を中心として、街全体でリゾートエリアを形成
- 温泉の歴史は、約2000年前、古代ローマ軍がこの地に保養施設を設置したことに始まる
- カジノは250年以上の歴史があり、「世界で最も美しいカジノ」と言われている

■ 主な施設構成

- ホテル（市内に様々なランクの宿泊施設が存在）
- クアハウス（温泉施設、コンサートホール、レストラン、カジノのある複合施設）
- オペラハウス（ヨーロッパで2番目に大きい）
- 劇場
- 美術館
- 博物館
- 浴場（1877年より営業）



(出典) バーデンバーデンウェブサイト (<https://www.baden-baden.de/>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例④ 世界一のエンターテインメント・シティ

ラスベガス (米国)

■ 特徴

- ネバダ州の砂漠地帯に位置する世界有数の国際観光都市である
- 街の中心地である通称「ストリップ・エリア」は、巨大なカジノ・リゾートホテルが集積する一大観光スポットとなっている

■ ラスベガス市の概要

- 人口
約60万人 (ネバダ州最大の都市)
- 年間総訪問者数
4,300万人 (2016年)
- ホテル数
約280 (約15万室)
- MICE
約150施設 (総面積約100万m²)
- カジノ数
約100施設



(出典) ベラーシオ・ラスベガス ウェブサイト (<https://www.bellagio.com/en.html>)



(出典) ラスベガス市 ウェブサイト (<https://www.lasvegasnevada.gov/>)

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(1) 海外におけるIRの事例 - ポイント



(出典) 特定複合観光施設区域整備推進本部事務局
「IR推進会議取りまとめ(概要)
～観光先進国」の実現に向けて～平成29年8月

■ 海外のIRでは…

- 多くの観光客・ビジネス客が訪れることにより、地域経済の振興や雇用創出等に貢献
- 昼夜を問わず、ビジネスからファミリーまで、上質なものから手軽なものまで、幅広いコンテンツが提供されている
- カジノは、IR施設全体の一構成要素にすぎない

(2) IRに対する規制

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(2) IRに対する規制 - 世界最高水準の規制



道民の声②

IRに対する規制の内容を教えてください！



安倍総理大臣は、「クリーンなカジノを実現するため、**世界最高水準のカジノ規制を導入**するとともに、それを的確に執行するための体制を整備する」と発言

■ 世界最高水準の規制とは…

① 事業者の廉潔性（清廉潔白であること）を確保

- 免許等による厳格な参入規制（審査、背面調査の実施）
- 反社会的勢力等不適格な者を排除 等

② カジノ事業活動の規制

- カジノエリアの面積規制
- 施設規模や構造、カジノ機器に関する規制
- 政府から独立した規制機関である「カジノ管理委員会」による監督 等

③ 依存症防止対策

- 入場規制（入場回数制限、本人や家族の申告による利用制限、入場料の徴収）
- カジノに関する広告や勧誘の制限 等

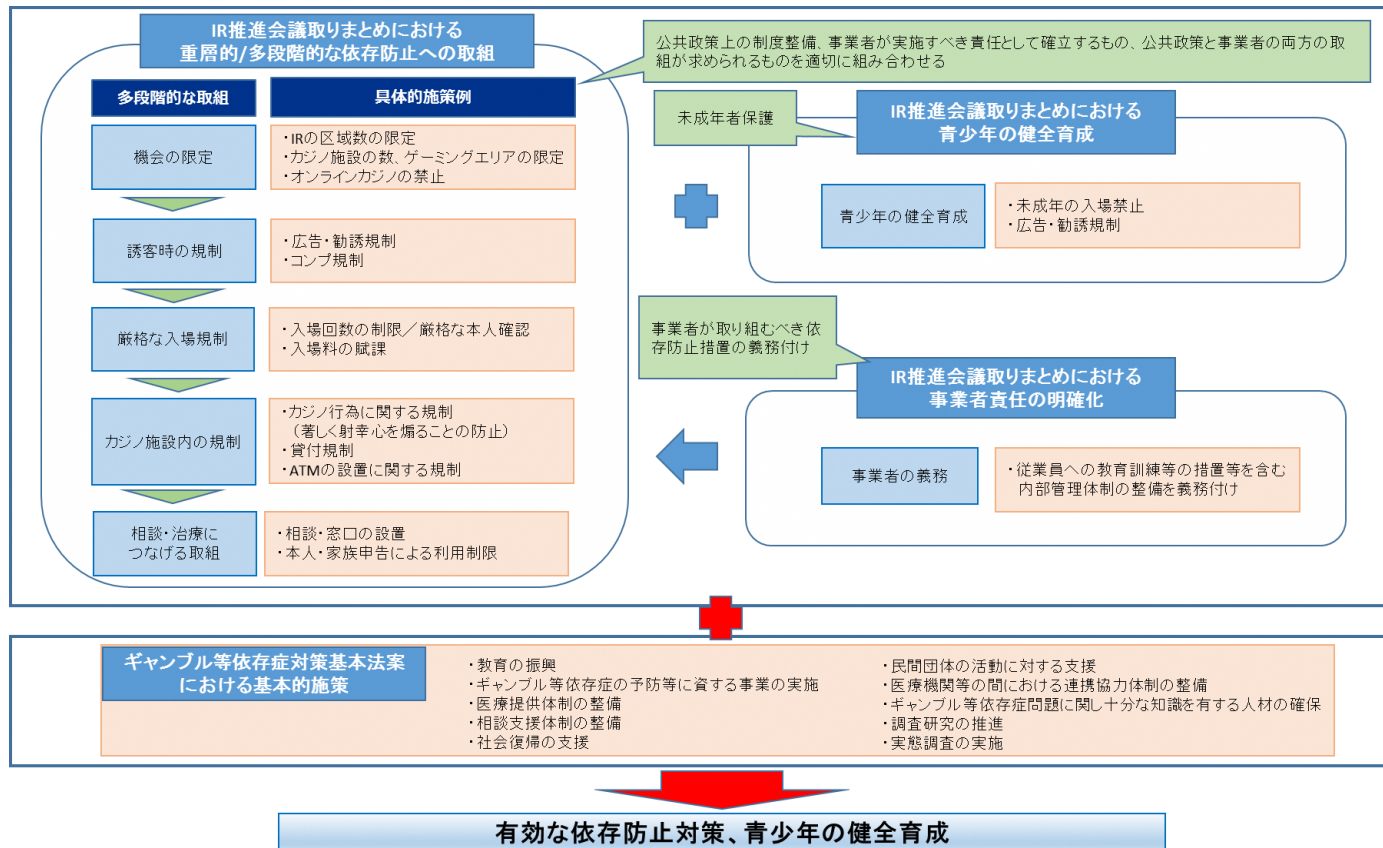
④ その他

- 青少年への悪影響排除、マネー・ローンダリング対策、カジノ事業から徴収する税金を公益に活用 等

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

(2) IRに対する規制 – ギャンブル等依存症対策

- IR導入を機会に、国は既存のギャンブルも含めた依存症対策に取り組んでいる
- カジノは其中でも最も厳格かつ独自の対策が検討されている
- IR事業者は、カジノライセンス取得時及びカジノ運営時のモニタリングにおいて、依存症対策を適切に実施していないと判断された場合、事業運営ができない仕組みが導入される



(3) IR開業までの想定プロセス

2. 前回セミナーで関心の高かったポイント

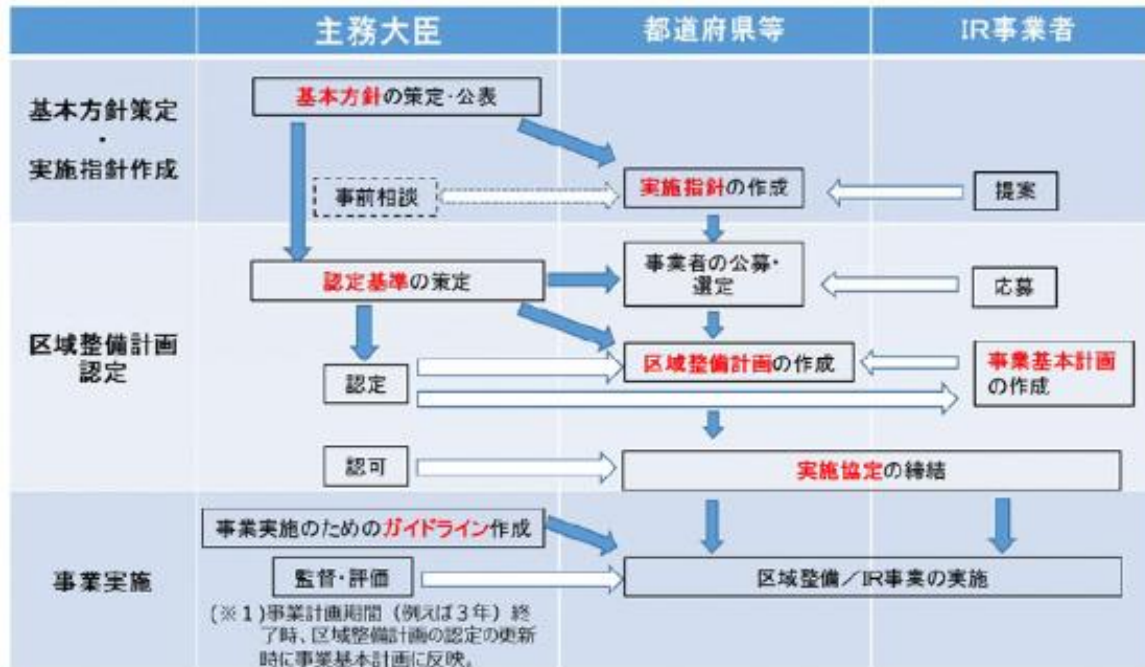
(3) IR開業までのプロセス



道民の声③

IRが日本にできるまでのプロセスが知りたい！

- 自治体が事業者を選定した上で、その提案に基づいた**具体的な事業計画（区域整備計画）**を共同作成して**国に申請**し、国が当該事業計画に基づき**区域を認定**するというプロセスが想定されている。
- 自治体は**地域社会及び住民からの合意を得ていることが前提**となる。



(※2) 主務大臣は実施指針の作成、区域整備計画の作成等に係る事前相談体制を整備。

(出典) 特定複合観光施設区域整備推進会議「特定複合観光施設区域整備推進会議取りまとめ～「観光先進国」の実現に向けて～」(2017年7月)

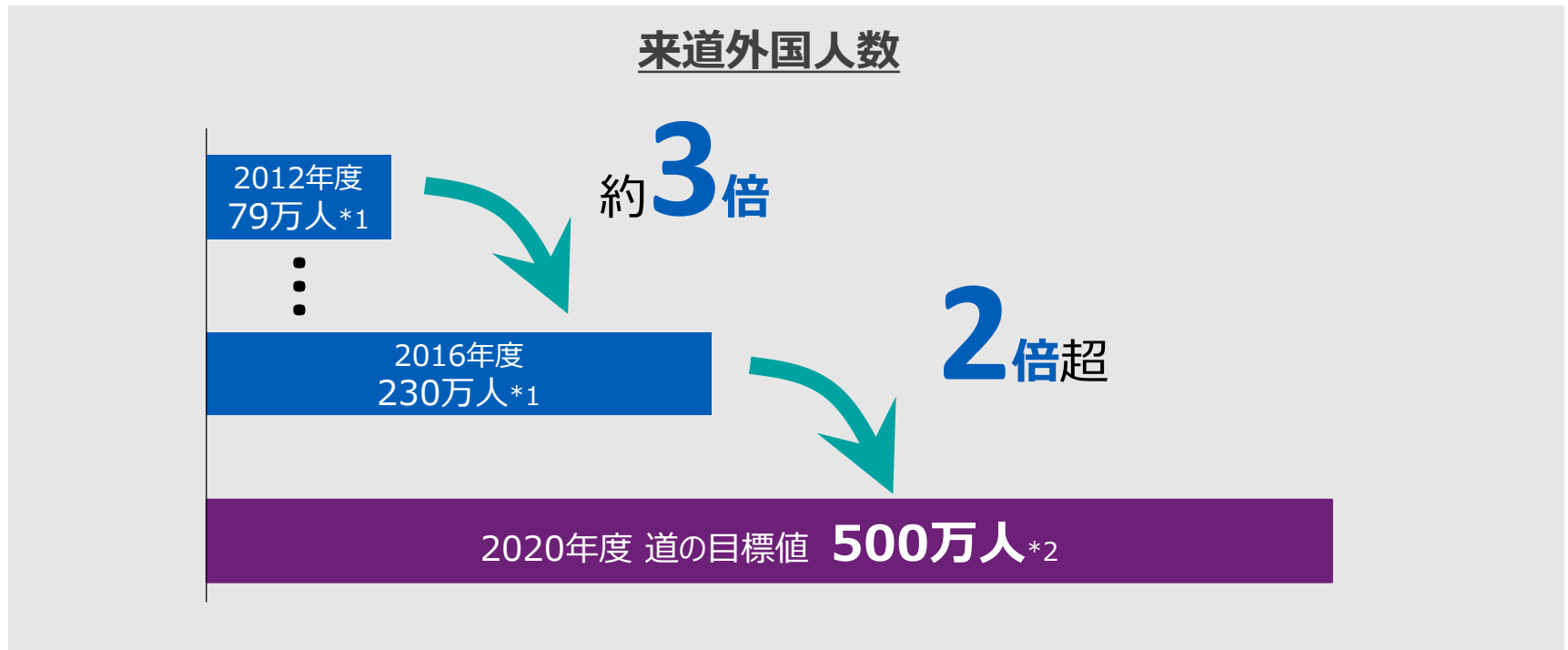
3. インバウンド促進に向けた課題とIR

(1) 現状と課題

3.インバウンド促進に向けた課題とIR

(1) 現状と課題 – インバウンドの現状及び目標

- ▶ 北海道を訪れるインバウンド（来道外国人観光客）は年々増加しており、2012年度から2016年度の5年間で約3倍となっている
- ▶ 北海道は、2020年度にインバウンド500万人を目標としている



*1 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

*2 北海道経済部観光局「北海道インバウンド加速化プロジェクト」（平成29年2月）

(1) 現状と課題 – インバウンド促進に向けた課題

課題①

観光客の地域的・季節的偏在の解消

- 札幌を中心とした**道央圏に宿泊客が集中**する傾向
- **夏季と冬季に観光需要が集中**する傾向

課題②

インバウンド受入体制の整備

- **富裕層向け**の宿泊施設や、**長期滞在型**の宿泊施設が**不足**
- 少子化や首都圏等への若年層の流出により、**労働力が不足**
- **多言語対応が可能な人材が不足**
- 空港や鉄道の駅から観光地までの鉄道、自動車、バス等の**2次交通の整備**
- **空港施設のキャパシティ不足**への対応
- 国内外及び道内の**航空ネットワークの強化**、**LCC等の誘致**

(2)北海道にIRが設置された場合に期待される効果

(2)北海道にIRが設置された場合に期待される効果①

 課題①

観光客の地域的・季節的偏在の解消

 期待される効果①

- 体験型観光や、豊かな食・独自のアイヌ文化等北海道の多様なコンテンツを紹介できる魅力的な機能が整備されることで、北海道のショーケース機能が発揮され、道内全域への観光客が増加
- 増加する富裕層観光客や長期滞在観光客に対応するためのハイクラスなホテルや長期滞在施設の整備
- 国際競争力を持つMICE等の誘致により、年間を通じた集客が可能となり、観光客の季節的平準化が促進

(2)北海道にIRが設置された場合に期待される効果②

課題②

インバウンド受入体制の整備

期待される効果②

- 観光客の増加により観光への投資が促進され、**道内観光施設が活性化**
- 観光への投資の一環として、**観光人材の育成**等を図ることで、外国人観光客に質の高い対応が可能
- カジノの高収益による**従業員待遇の改善**や新たな投資による**生産性の向上**に伴い、**道内外から新たな労働力が供給**され、**人材不足が解消**
- IRのゲートウェイ機能により**観光客が増加**し、それに対応するための**道内の航空ネットワークの充実**等により、**2次交通機能が向上**

ご清聴ありがとうございました。